

議事要旨（第1回 大阪府中央卸売市場再整備検討会議）

日時：令和4年6月18日(土)9時～9時50分

場所：中央卸売市場管理棟7階 大会議室

出席：小野委員、藤田委員、山口委員、宮前委員、三木委員、酒井委員、川邊委員、花木委員、西田委員、榎本委員、金丸委員 計11名、事務局、受託業者（山下PMC、三菱UFJ R&C）

委員からの主な意見

①検討の方向性について

- ・広域中継拠点市場（ハブ市場化）の検討では、その位置づけを物流拠点機能とするか卸売市場機能とするかを考える必要あり。
- ・物流の2024年問題を考えると、物流拠点機能を関係団体とも調整していく必要があり、その機能も含めた施設規模やその際の使用料の考え方の整理も必要。

②民間資本の活用

- ・整備費用の軽減だけを目的に議論をすべきでない。また、民間ノウハウを活用した市場の管理・運営は全部ではなく一定程度に抑えるべき。

③施設規模

- ・適正な施設規模を検討する際には、事業費の抑制ありきではなく、市場の成長戦略の達成の視点も重要。

④市場関係者ヒアリング、他市場の建替え後の課題検証

- ・川上側（生産者、出荷者）や川下側（実需者）のヒアリングや、他市場の建替え後の課題発生状況等の調査も必要。